

線状降水帯予測精度向上ワーキンググループ第 5 回会合 議事概要

1. 開催日時

令和 4 年 12 月 27 日（火）13 時 00 分～15 時 00 分

2. 開催場所

気象庁 7 階会議室 1

※Microsoft Teams による web 会議を併用

3. 出席者

別紙 1 のとおり

4. 議題及び検討結果の概要

下記の議題について検討を行った。

○線状降水帯の予測精度向上に向けた取組の進捗状況について

- 局地モデルの高解像度化によって、線状降水帯予測が改善する可能性が示されたことは非常に良い結果である。更なるモデルの開発・改良を進めていただきたい。
- 現行の局地モデル等の予測には位置ずれの課題が見られるところ、今後改善を進めるにあたり研究者から気象庁へ助言をするためにも、位置ずれの誤差の大きさを統計的に明らかにしていただきたい。
- 半日程度前からの呼びかけに関して、線状降水帯が発生していなくとも大雨が発生している事例は多く見られたことから、情報の意義や実績を解説する際にはその点が伝わるようにすると良い。
- 数値予報モデルにおいて海面水温の扱いが線状降水帯の予測に影響を与える場合もあると考えられるため、海面水温解析の改善について取り組むことも検討いただきたい。

○線状降水帯の予測精度向上に向けた学官連携の方策について

- 「線状降水帯の機構解明に関する研究会」は、気象庁と大学等研究機関で知見の共有ができており非常に有益な場となっている。今年の集中観測を始めとする詳細

な観測により実況がよくわかり、モデルとよく比較・検証できるようになったことは新しい点である。今後、得られた知見を予測精度向上にどうつなげていくかが重要であるので、引き続き気象庁より最新の事例に関する数値予報の現状・課題などを研究者に適宜共有していただきたい。

- 事例調査にあたっては、メカニズムなどの特徴を踏まえつつ、重点的に調査するターゲット事例を選定し、気象庁と研究者で同じ事例を予測する比較実験を行うなど、様々な観点から知見を集約するアプローチも有効である。
- 予測の検証に関して、降水の分布や強度以外に様々な観点の指標も示すと議論が更に進められる。また、どのリードタイムでどの程度の位置ずれやスコアにすべきかという目標を設定し、研究者に共有することにより、知見のフィードバックがより進むと思われる。
- 数値予報資料共有 Web に関して、研究者として有効に活用しているところであるが、研究者が主導して共有 Web を参照しながら議論を行うことにより、気象庁の現場へのフィードバックが更に進むと思われる。

以上

線状降水帯予測精度向上ワーキンググループ第5回会合 出席者

線状降水帯予測精度向上ワーキンググループ 委員（外部有識者）

- | | |
|---------|--------------------|
| ○ 佐藤 正樹 | 東京大学大気海洋研究所 教授 |
| 伊藤 耕介 | 琉球大学理学部物質地球科学科 准教授 |
| 伊藤 純至 | 東北大学理学研究科 准教授 |
| 川村 隆一 | 九州大学理学研究院 教授 |
| 清水 慎吾 | 防災科学技術研究所 主任研究員 |
| 竹見 哲也 | 京都大学防災研究所 教授 |
| 坪木 和久 | 名古屋大学宇宙地球環境研究所 教授 |
| 芳村 圭 | 東京大学生産技術研究所 教授 |

(○：主査、敬称略、主査以外は五十音順)

気象庁出席者

- | | |
|--------|--------------|
| 安田 珠幾 | 総務部参事官（技術） |
| 石田 純一 | 情報基盤部数値予報課長 |
| 長谷川 昌樹 | 情報基盤部気象衛星課長 |
| 黒良 龍太 | 大気海洋部予報課長 |
| 竹川 元章 | 大気海洋部気候情報課長 |
| 永戸 久喜 | 気象研究所研究連携戦略官 |